

再生可能エネルギーへの取り組み

東洋インキグループは、太陽電池材料の提供を通じて太陽電池の性能向上に寄与するとともに、発電した電気を貯めることで需要との時間差をコントロールする二次電池の材料も提供しています。また、国内外で太陽光発電設備を導入するとともに、コージェネレーションシステムや廃溶剤を燃料の一部に利用する副生液ボイラーにより、CO₂排出量の削減を行っています。

再生可能エネルギーに関する技術開発

●太陽電池材料

トーヨーケム(株)のバックシート用高耐候コート剤「ダイナレオ® PRC」は、環境にやさしい非フッ素系で高い耐候性を実現し、独自の技術で封止材(EVA)との接着力を飛躍的に向上させることで、太陽電池パネルの耐久性や発電効率の向上に貢献しています。

●二次電池(リチウムイオン電池)材料

トーヨーカラー(株)の「リオアキュム® ワンショットワニス®」は、カーボン粒子などの材料を最適な状態に分散・混合したリチウムイオン電池電極用の機能性分散体です。カーボン粒子の凝集が少なく均質な電極膜を形成することができ、高品位で安定した電池電極の製造が可能で、製造工程の大幅な効率化にも寄与します。

●バイオ燃料電池

微生物の代謝を活用するバイオ燃料電池は、廃水に含まれる有機物からの電気エネルギー回収(発電)と有機物の分解による水浄化を同時に行うことが可能で、次世代型の環境調和水浄化システムとして注目を集めています。

す。東洋インキSCホールディングス(株)は、高価な白金に代わる炭素材料触媒インキを開発し、バイオ燃料電池の実用化に向けた電極部材を提案しています。

再生可能エネルギーの導入状況(2018年度)

